

# 海を学ぼう! 海を守ろう!

7月は「海の月間」です 今年の「海の日」は、7月19日

「海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日」として、毎年7月の第3月曜日を国民の祝日「海の日」としています。この「海の日」の趣旨を広く国民に理解していただくため、毎年7月1日から7月31日までの1ヶ月間を「海の月間」としています。

## 私たちの生きることに欠かせない『海』

今回は、その『海』をテーマに、海にすんでいる生きもののことや海岸での過ごし方を学び、海を守るために私たちができることを紹介します。海水浴シーズンを前に、美しい海について考えてみましょう!

身近な錦江湾。

錦江湾は、南北に約80km、幅は広いところでは約20kmあり、また南側の一番深いところでは200m以上と、それぞれの場所で深さにも差があり、バラエティに富んだ海といえます。また、多くの有機物やプランクトンに恵まれ、それらがたくさんの生きものたちの命を支えています。

そのようなことから、めずらしい魚も多く、全国でも錦江湾でしか見ることができないアカオビハナダイの大群や、2009年に水中カメラマンの出羽慎一さん(鹿児島市在住)の名前が学名についた「モイロカグヤハゼ(学名: *Navigobius dewa*)」も生息しています。錦江湾には、まだまだ発見されていない生きものがすんでいるかもしれません。まずは、多くの恵みを私たちに与えてくれる身近な錦江湾に注目してみてください。



## 海で遊ぼう!

海水浴を安心して楽しむためにいくつかの注意点を紹介します。

1. 安心して泳げる海水浴場を選ぶ
2. 家族や友達と一緒
3. 天気や海のことをしっかり確かめる
4. 泳ぐ前には必ず準備体操
5. 体調に気をつけよう
6. おぼれそうな時には人に知らせる

(出典:海上保安庁「海の未来を考える」)

## 鹿児島の宝・錦江湾

錦江湾は、閉鎖的な内湾にもかかわらず、深海と呼べるほどの深みを秘めています。この特殊な地形と、黒潮の恵みを受けて、個性で豊かな生態系が育まれています。中には錦江湾だけでしか見ることができない生き物たちも暮らしています。そんな錦江湾に、周辺に暮らす85万人の人が生活や生産のために使った水の全てが流れ込みます。無数の命を育む豊かな錦江湾を守るため、私達に何ができるのか、一度考えてみませんか?

文・写真/出羽慎一



アカオビハナダイ



モイロカグヤハゼ

## ☆やってみよう! 海ボラ(海でボランティア)☆



5月15日(土)に海でのボランティア活動をテーマにした環境未来館主催講座「はじめてみよう!海ボラ!」を開催しました。講師の鹿児島大学 藤枝先生によると、海岸にたどり着いた漂着物を拾い集めることを、「ビーチコーミング」ということで、実際に磯海岸でビーチコーミングを実践してみると、ガラスの丸くなった物やペットボトル、漁業の道具などがたくさん落ちていました。このようなごみは、海に住む魚や鳥たちに、被害を与えることもあります。これからの季節、海水浴やキャンプに行く機会が増える時期ですので、自分達で出したごみはしっかり持ち帰る。それだけではなく、ごみ拾いをして「来た時よりも美しく」して綺麗な海を守れるといいですね。

## ☆鹿児島市内の「海」のおすすめレジャースポット☆

- ◆生見(めくみ)海水浴場(喜入生見町)
 

大隅半島を望む白砂青松の遠浅の海岸で、昼は家族連れなどの海水浴で賑わいます。海開きに合わせてロッカー・シャワー室・トイレを備えたビーチハウスがオープンします。最寄のJR指宿枕崎線生見駅から徒歩10分で行くことができます。  
◎海開き:7月21日(水)  
問い合わせ先 サンサンコールかごしま:TEL 099-808-3333
- ◆桜島海づり公園(桜島横山町)
 

桜島湾腰沖合に全長約50mの釣り台が設置されており、水深は6~9mです。潮流は比較的速い釣り場で、女性や子供でも気軽に釣りを楽しめます。海底の地質は、自然のままの溶岩地形であり、溶岩群集地帯となっています。  
問い合わせ先 桜島海づり公園管理事務所:TEL 099-293-3937
- ◆石橋記念公園(浜町)
 

錦江湾にそそぐ、稲荷川の河口に「石橋記念公園」があります。8・6水害で被害にあった五石橋のうち流出を免れた西田橋が、隣接する祇園之洲公園には、高麗橋、玉江橋が移設復元され、記念公園内には、五石橋の歴史や技術を伝える石橋記念館があります。川沿いに下ると、防波堤にベンチがあり、錦江湾を見渡せるスポットもあります。  
問い合わせ先 鹿児島県立石橋記念館:TEL 099-248-6661